

令和7年度仁木町地域おこし協力隊活動報告書

令和7年度における活動内容記入願います。

氏名	福重 めぐみ	活動年数	2年
活動目標	<p>①地元農家、農園の研修を通して、特産品の栽培及び商品化等の流れを把握し、イベントなどでの販売及びPR活動に活かすとともに、関係構築を図り、会員紹介リーフレット作成を目指す。</p> <p>②協力隊卒業後の定住に向け、ワイナリー勤務を目指す。ワイン用ブドウ栽培、ワイン醸造、ワイナリー業務の理解、知識や技術の習得。また、自身ワインの販売や委託醸造先を検討。ワイナリーとの信頼関係の構築から発展した仁木町PR活動。</p> <p>③イベント運営に携わり、イベント運営のノウハウやワイナリーとの関係構築に努める。併せて、協力隊卒業後も仁木町に貢献できるよう、イベント運営から携わることにより、仁木町との繋がりを得る。</p> <p>④観光協会の自主財源確保に向けた仁木町産ワインのふるさと納税商品化を行う。</p> <p>⑤ワインアカデミー受講し、観光協会の販路拡大及び協力隊卒業後の定住に向け、ワイン用ブドウ、栽培、醸造の知識を習得する。</p>		
活動内容	<p>①農業研修（果樹生産）の実施 気候変動による作業日程の変更や、イベント繁忙期が重なったことにより、農園研修は4社・計9回となりました。 成果：回数は限定的でしたが、さくらんぼ、プルーン、棚ブドウといった仁木町を代表する果樹栽培に直接携わりました。これにより、特産品をPRする際の知識に厚みが増しました。 次年度への計画：当初の遅れを考慮し、3年目も継続して研修を実施します。蓄積した知識を基に、リーフレット作成に着手します。</p> <p>②ワイナリー研修と市場開拓 イベント運営等の影響で研修日数は前年度を下回りましたが、活動の「質」と「幅」において前進がありました。 技術習得：昨年とは異なる工程に従事し、より多角的な経験を積むことができました。 関係構築：研修先が増えたことで、町内生産者とのネットワークがさらに強固なものとなりました。 販路拡大：道外でのワイン会において、紹介できるラインナップ（ワインリスト）の拡充に成功。また、道外の酒販店や飲食店を対象とした試飲会を自ら開催し、市場拡大に向けた具体的な一歩を踏み出しました。</p>		

③イベント運営を通じた連携

「仮面葡萄会」や「ワイリングウォークフェス NIKI」の運営に深く関わりました。

成果：生産者との信頼関係が深まり、単なる「協力隊員」を超えた連携が可能となりました。

展望：協力隊卒業後も、これらのイベントや地域活動に関り、観光協会とのスムーズで効率的な関係作りと仁木町との繋がりを継続したいと考えます。

④収益化事業（ふるさと納税）の課題

仁木町産ワインセットを返礼品として出品しましたが、1月末時点での実績は5セットに留まりました。

課題：仁木町の返礼品にワインセットが出品されているという認知度の低さが最大の壁となりました。

次年度の対策：観光協会と密に協議を行い、出品構成や広報戦略を根本から見直します。広告の活用を含め、より戦略的な露出を図ります。

⑤専門スキル習得（資格・講習等）

今年度は受講申し込みを行ったものの、抽選により受講機会を得られませんでした。

次年度の計画：3年目の目標として再度申し込みを行い、業務に直結するスキルの習得を確実に目指します。

自己評価	<p>●一年間の自己評価及び進捗状況</p> <p>①農業研修およびPR活動の進捗</p> <p>一部のスケジュールに変更が生じましたが、その分現場での活動は充実したものとなりました。実際に農園での果樹栽培作業に携わることで、果実生産の実践的な知識を深めることができました。また、ワイナリー研修では、1年目に訪問できなかったワイン生産者の方々とも交流し、仁木町内のほぼ全ての生産者と接点を持つことができました。現場で得た知識とネットワークを活かし、町外でのPRイベント等でより説得力のある発信を行いました。</p> <p>②自主財源確保に向けた取り組み（ふるさと納税）</p> <p>観光協会の収益化を目指し、仁木町産ワインの返礼品開発に注力しました。5月から準備を開始し、11月に予約受付、12月に配送を開始するサイクルを確立しました。令和7年度は期待したほどの実績には至りませんでした。3年目以降、より効果的な広告戦略を役場担当部署とも緊密に連携し、露出機会の最大化を図ります。</p> <p>③地域観光の強化と今後のビジョン</p> <p>北海道観光振興機構の「伴走支援型観光地域強化推進事業」に参画し、地域の課題と可能性を再確認しました。協力隊卒業後を見据え、観光協会と連携したワイナリーツアーの自走を目指します。ツアーアテンドのスキルを磨くため、引き続き機構の事業を活用し、専門性を高めていく考えです。</p>
抱負	<p>地域おこし協力隊の最終年として、卒業後の仁木町への定住を前提とした活動を加速させます。これまで培ってきた生産者との信頼関係を基盤に、町内ワイナリーへの就職を視野に入れた実地研修を継続します。現場での経験を深め、即戦力として貢献できるスキルを磨きます。</p> <p>協力隊卒業後も仁木町に貢献し続けるため、観光協会と連携した収益事業や広報の基盤を固めます。観光協会会員リーフレットの作成し、地域の魅力を可視化します。ふるさと納税返礼品の出品・運用を継続し、2年目の課題であった「認知度拡大」に向けた効果的なプロモーションを実践します。北海道観光振興機構の事業に継続参加し、ツアーアテンドの専門知識を習得します。観光協会と連携した「ワイナリーツアー」の実施計画を策定し、卒業後も関われる業務形態を構築します。</p>
その他	<p>※一年間で得た表彰、資格等がありましたらご記入ください。</p>

活動写真



↑ さくらんぼ花粉付け



↑ さくらんぼ剪定



↑ プルーン選果



← 靱折りのセット



↑ ワイナリー瓶詰め作業



↑北海道観光振興機構・NIKI ガストロノミーツアー造成事業/ワイナリーモニターツアー



←北海道観光振興機構・NIKI ガストロノミーツアー造成事業/収穫体験・ガイド研修モニターツアー



↑関西からお客様をワイナリー見学アテンド



↑商品開発（ニキボーポストカード） ↑商品開発（さくらんぼソフトクリーム）



←販促物作成依頼



↑ワイリングウォークフェス ↑マラニック ↑町外で仁木町 PR 活動



↑道外ワイン会開催